ローラ（1961）

LOLA
DONNA DI VITA ［伊］

メディア 映画
ジャンル ドラマ　ロマンス
製作国 フランス／イタリア
色彩 B&W
時間 85分
初公開日 1992/01/17
公開情報 ユーロスペース

【キャッチコピー】
ヌーヴェル・ヴァーグの真珠

【解説】
Ｊ・ドゥミのデビュー作で“ヌーヴェル・ヴァーグの真珠”と呼ばれる作品。キリッとした顔立ちながら、なんともたおやかな美しさのＡ・エーメがなるほど神々しいほどの光彩を放っている。舞台はドゥミの故郷でもある港町ナント。そこでの初恋の想いをもとに、純真な恋を貫く踊り子の物語を詩情あふれるタッチで綴り、その後の彼の作品の原イメージともなった（「シェルブールの雨傘」や「ロシュフォールの恋人たち」でも主人公ローラのことは唄の中で歌われる）。本来「ヨハネスブルグへの切符」という初のカラー・ミュージカルの予定だったが製作者が見つからず、ゴダールの紹介で「勝手にしやがれ」を製作したＧ・ドゥ・ボールガールを迎え、白黒でしかも無声（アフレコ）という低予算の企画で再スタート。今となってはこの躓きを神に感謝しなくてはならない。それほど、Ｒ・クタールのモノクロ撮影が素晴らしいのだ。不条理とも言える人生の交錯を甘美に描き、ローラの扮装はディートリッヒを思わせるーーと書けば、そのロマンチシズムも窺い知れるだろう。“エル・ドラド”という名のキャバレーに勤める子連れのヒロイン、ローラは、７年前に忽然と姿を消した恋人ミシェルをひたすら待ち続けている。店を訪れた水兵フランキーと一夜を共にしたのも、彼があまりにミシェルに似ていたから。そこへ、仕事にあぶれた幼なじみローランと１０数年ぶりに再会。彼はローラこそが初恋の人と確信し求婚するが、ローラはミシェルをやはり待つと言う。一方、フランキーはローランの既知デノワイエ夫人の娘セシルと祭りで出会い、夢のような時を過ごす。ローランは船に乗り、ローラも町を去ろうとしていた。そしてその頃、既に町に着き彼女を探し回っていたミシェルがようやくローラを見つける……。

【クレジット】

監督	ジャック・ドゥミ	Jacques Demy
製作	カルロ・ポンティ	Carlo Ponti
	ジョルジュ・ドゥ・ボールガール	Georges de Beauregard
脚本	ジャック・ドゥミ	Jacques Demy
撮影	ラウール・クタール	Raoul Coutard
音楽	ミシェル・ルグラン	Michel Legrand
出演	ジャック・アルダン	Jacques Harden
	アヌーク・エーメ	Anouk Aimee
	マルク・ミシェル	Marc Michel
	コリンヌ・マルシャン	Corinne Marchand

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.